

日本薬学会第124年会

「癌化学療法と臨床薬剤経済学」

日時：平成16年3月30日(火) 12:30～13:30
会場：ハイアット・リージェンシー・オーサカ
ボールルームB（E会場）

薬剤経済学という学問分野に対する関心が学会や各薬剤関係雑誌などで最近急速に広まってきた。従来の薬剤経済学といえば、経済学者や行政関連分野の専門家たちにより、用語を定義したり、薬剤経済原理や理論を確立したり、方法論を確立することにもっぱら神経を集中してきた。その一方、これら薬剤経済の原理や方法、理論を実際の薬剤業務にどのように応用できるかについてはあまり関心が払われていなかった。

臨床薬剤経済学とは、薬剤経済学が実際に臨床の現場で適用可能かどうか分析し評価し応用する学問である。すなわち、薬剤経済評価の原理や方法、理論を臨床の現場に適用し、医療スタッフや患者に、臨床試験では得られなかった長期的な薬剤のメリット、デメリットなどさまざまな情報を組み合わせ、全ての価値を明らかにし、薬剤が社会に対し与えるであろう影響力を定量化することである。しかし、その結果を得るためのプロセスは簡単ではない。従来の臨床研究とは異なるアプローチをとり、そこには、なじみの薄い様々な用語や概念がふんだんに使用されている。したがって、情報提供をする医療スタッフや患者に分析結果を十分に理解してもらうためには、提供する側である薬剤師の薬剤経済学に対する十分な知識が必要となる。このランチョンセミナーでは、薬剤経済学の臨床応用として癌化学療法と薬剤経済学の研究について報告する。

◆座長

神戸大学医学部附属病院 薬剤部長・教授

奥村 勝彦 先生

◆演者

聖路加国際病院 薬剤部長

井上 忠夫 先生

共催

日本薬学会第124年会
住友製薬株式会社